

試料・情報利用研究計画書(概要)

審査委員会 受付番号	2018-2002	利用形態	内部研究	利用する 試料・情報	試料:なし 情報:三世代コホート300家系、地域住民コホート約1,000人の 基本情報、生化学情報、血液検査情報、既往歴	
主たる研究機関	東北メディカル・メガバンク機構			分担 研究機関	なし	
研究題目	三世代男系由来Y染色体パネル作成とその応用			研究期間	2018年4月1日～2023年3月31日	
実施責任者	鈴木 吉也	所属	東北メディカル・メガバンク機構		職位	教授
研究目的と意義	<p>三世代コホートに参加している家族の三世代形成に貢献する因子を、男系の最上流である祖父に着目して解析・同定し、得られた結果を活用し、男性不妊患者の診断パネル作成等を行います。</p> <p>不妊原因の10%以上が男性因子と考えられ、その原因の一つとして男性特有の性染色体であるY染色体のゲノム異常が注目されています。この研究では、急速に進んでいるゲノム解析技術を応用して、将来男性不妊の原因の早期診断法や有効な治療法を開発するための基盤づくりを目的にしています。</p>					
研究計画概要	<p>① 三世代コホート参加家系の中で、Y染色体が三世代に渡り保存されていることを確認した300家系及び地域住民コホート調査の男性参加者のうち、前述の三世代コホート集団と条件をマッチングした成人男性集団約1,000人から得られたゲノムデータを用い、高精度の三世代男系由来Y染色体パネルを作成します。</p> <p>② 作成した高精度三世代男系由来Y染色体パネルを元にジャポニカアレイ for MEN(仮称)を作成し、男性不妊患者の診断補助に用います。</p> <p>③ 東北大学病院産婦人科不妊治療グループの協力を仰ぎ、症例を集積し、ジャポニカアレイ for MEN(仮称)を用いて男性不妊特異的SNPsを同定します。</p> <p>④ 不妊症と関連がある変異/多型が認められた男性不妊患者に対しては、生殖医療専門医及び臨床遺伝専門医より病気の理解を深めるための遺伝カウンセリング及び治療のサポートを行い、そこで得られた知見を蓄積し、男性不妊症カウンセリングに活用する仕組みを構築します。</p>					
期待される成果	<p>本研究は被災地における将来の三世代家族再構築にとって重要な研究テーマと考えられます。</p> <p>なお、ゲノム解析データについては解析終了後2年以内に速やかにTMMバイオバンクに返却し、試料・情報分譲審査を経てゲノム研究者コミュニティに還元します。</p>					
これまでの倫理 審査等の経過	平成30年11月 東北メディカル・メガバンク機構倫理委員会承認(2018-4-038) 課題名:三世代男系由来Y染色体パネル作成とその応用					
倫理面、セキュリ ティー面への配慮	<p>・他に、東北大学病院を受診した男性不妊患者に趣旨を説明し、同意を得られた方に参加いただきます(約100名)。</p> <p>・「ヘルシンキ宣言(2013年10月改訂)」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針(平成20年12月改訂)」および「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(平成26年12月22日(平成29年2月28日一部改正)文部科学省・厚生労働省)」を遵守して実施します。</p>					
その他特記事項	科研費(基盤B) 課題名:三世代男系由来Y染色体パネル作成とその応用					
* 公開日	平成30年12月4日					